



書家 加藤裕さん作『久遠』

真宗高田派  
賢隆山久遠寺  
〒460-0007  
名古屋市中区新栄1-4-6  
Tel & fax 052-241-5231  
www.kuonji.net  
Kenryuzan-kuonji@nifty.com



# 久遠寺住職の いま不思議ないのちを生きている!



温暖化によって、地球全体に猛暑、豪雨、土石流といった現象が起っています。身近なことですと、5年程前の拙寺では、扇風機や団扇、簾などで暑さを凌いでいました。夜になれば網戸から涼しい風が入ってきたものです。日中は蝉が沢山おりましたが、蝉一つをとつても何種類かが生息し、その蝉によって季節の進み具合が感じられました。しかし現在は、その生態系が少しずつ変化しています。人間の飽くなき努力によって暑さが凌げ、寒さをも耐え得ることが出来るようになりました。人間による科学の発達には、暑さ寒さから逃げる手段を作り、結果として辛抱する心が萎えてきました。このような現実からの逃避によって子供への虐待、無差別殺人、自殺者が増え、個々の関係や家族の絆が薄い社会になっているように感じます。現代は変に一律平等化され、一人一人の特性を見つけれない、また生かされていまい気がします。人間の知識(脳)によって豊かさを追求するあまり、自然を破壊し、自然の生態系をバラバラにしたところに原因があることに気付かなければなりません。自分の都合でしか考えられないことが寂しい限りです。

人間の寿命には限りがある」と教えられましたが、医学の進歩により法がいのちを量るようになってきました。脳死は人の死とされ、社会的同意や本人・家族の同意があれば脳死患者の臓器摘出は許されることが制定されました。救われな命が移植によって救うことができるようになり、現代医学はすごいと感心するばかりです。その反面、脳死状態はまだ患者の体が温かく、髪も髭も伸びていくそうです。そして、肉体が温かい内に麻酔を打ち、臓器を摘出せねば役に立たないと聞きます。ですが、故人の肉体が無くなつても人間は人間であり、「もの」ではありません。役に立つとか立たない「もの」としての問題でなく、亡くなられた方の歴史を知り、その縁によって私も生かされていることも考えなくてはならないと思います。社会が同意したから良しとすれば、一方では人の死を待つている人もいるわけです。最悪の場合、次世代では臓器の売買まで進んでいくのではないのでしょうか。非常に心配であり、憤りも感じます。科学の

正しさ、多数決の正しさをもう一度判断し、人間自身を内省することが必要であると思います。未来に向かつて今現在の人間の行為が正しいかどうかを、私たちが未来の子供・孫の時代に過去である今現在の私たちの行為が間違いでなかったと思われするように、しっかりと熟慮を重ねて慎重に進まねばなりません。

臓器移植の問題に留まらず、全国で行方不明の高齢者があまりにも多くおられることに驚きました。また育児放棄に至つても、育児放棄された子の祖父母までも現状に気付かないでいます。家庭関係の薄さや絆の喪失を思うのと同時にもう一度、家庭とは何かを問われているかのようです。親がどこに居るのかわからないとは、一緒に住むことを双方が拒否した結果であるように感じます。家族との生活は人間形成の場であり、会話を重ねる毎に大人になっていく場でもありました。祖父や祖母と一緒に生活する中で衰えていく姿が最近では見えなくなりました。このことは、自分の未来の生き証人がその場から無くなり、ただ自分の欲望としかに楽しく豊かに生きるかだけを追求し、必要でないものは排除していく傾向だと思います。自分もいつか排除される身であるというこの想像力が失われているのではないのでしょうか。

自分の行くべき道を示して下さい、また事実を生きてきた人の行為、言葉を継いでいきましょう。また相手の立場、考えを尊重し、互いに向かいあつて会話のできる関係の場を作りましょう。過去・現在・未来のつながりで生きていることに目覚め、先に往かれた人々が行くべき方向を指し示して下さい。それは、今あることに感謝しあえる人間になつてくれよ」と願つておられるのではないのでしょうか。

最後にある川柳を紹介したいと思います。

妻自立 子供独立 おれ孤立

家族との結びつきをどう持てばいいのか、日々反省しながら我が身に問いかけていきたいものであります。

合掌  
当寺住職 高山元智

十月

# 信心の人を

## 真の仏弟子といえり

信心の人を釈迦如来は我が親しき友なり」と言われ、「この信心の人を真の仏弟子といえり」「真宗聖典」親しき友とは仏様の教えに遇うと心が柔らかくなるとされ、続いて教えを聞いて忘れるとされ、続いて教えを聞いて忘れず、教えを敬い、教えを喜ぶ人とあります。人間は尊く有難い話と思つても喜ぶべきことを喜ぶえない者であり、プラスマイナスの世界に毎日囚われています。柔らかい心、敬う心は、その欲望に縛られて他を恨み、嫉みしている自分に懺悔する心を教え聞かせて頂くのが真の仏弟子であり、その目覚めによつて少しづつ本当の人間としての歩みがはじまるのでありますよ。



親鸞聖人

十一月

# 恩を報じ

## 徳を謝せよ

親の恩、私以外のすべてのものに感謝せねばなりません。しかし私たちは目には見えないものの形のないものにはなかなかそのような心が起きてこないのも事実であります。健康で思い通りにいっている時などは特に恩に報ずることなど感じません。しかし、病気になるたり老いがきたりすると、父祖の言葉・行為が自分の為と言つて下さつていたことに初めて気付くでしょう。全ての人に迷惑をかけずには生きられないと気付かされ有難う「すみません」と言える時、自分には見えなかつた恩に報いる心が芽生え、全ての恩恵に感謝せずにはおられない自分に気付けてもらいましょう。

十二月

# 浄土真宗は

## 大乘のなかの

## 至極なり

浄土真宗と言いますと、宗派の一つであると思われませんが、聖人の心は浄土を真宗の宗とする「教えであると言われています。真実とはいつてもどこでも誰にでも通じることです。我が身に成就することとそれを要とすることが清浄なる心、互いに尊敬し合える精神的世界が浄土でありましょう。大乘とは大きな乗り物で、大きな心であります。戒律を守つたり、修行をしたり、断食したりして悟りを得ることはなかなか難しいことです。さらに本当のことができない、本当の救いを知らない人間であります。そんな横着な人間を救わずにはおれないとの大きなこの上のない寛容な仏様のみ教えなのです。

十月十六日(土) 午後一時より法要  
午後二時より法話  
師匠  
報恩講  
報恩茶会  
午前九時半より午後十一時迄  
がら飯茶会  
午後九時迄

〒634-0211 久遠寺  
TEL: 074-241-2111  
URL: http://www.kuon.jp/  
E-mail: kuon@kuon-jp.net

くご案内

平成22年10月16日(土)

## 当山報恩講執行

法要 午後一時より  
法話 午後二時より  
布教使 浄泉寺住職 戸田信行師  
非時 午前十一時より

## 報恩茶会 於書院茶室

午前九時半より午後十一時半迄

年に一度の報恩講をお勤め致します。人間親鸞がいに苦悩から脱却したのかを、報恩講のお勤めと、法話を通して学んで頂けたらと思えます。皆様お誘い合わせの上、御参詣下さる事を、寺族一同心よりお待ちしております。

南无阿弥陀仏

# 仏教クイズ

あなたはいくつ答えられる？！

①高田本山の報恩講は何月？

- 1、1月 2、2月 3、5月
- 4、9月 5、10月

②お非時・お斎はどういう意味？

- 1、休憩 2、掃除 3、食事

③久遠寺の報恩講で全員で唱えるお経さまはどれ？

- 1、仏説阿弥陀経 2、正信偈
- 3、歎異抄 4、文類偈

④報恩講で住職が登壇して読むはなんという？

- 1、式文 2、歎徳文、3、呪文

答えは、このページの左下！！

## 久遠寺の掲示板



平成22年9月掲示

苦しいのは私を中心にしてゐるのだ  
平野修

苦しいのは私を中心にしてゐるのだ 平野修  
苦しみは自分が自分の思い通りしようとする考えから出てきます。この苦しみのは、自分の思いや自分の都合によって起こるのです。本当の人間の在り方がわからない故に、今現在の自分が正しいと思うところから起こってくるのでありましょう。自分自身の苦しみとは、「私の妄念で頭であれこれ分別して、その分別が行き詰まっているにすぎない(濟澤満之)」と言われ「人の為、外物の為でなく自分の妄想の為に苦しむ」と言われます。互いに自分を内省し、先達の教えを聞きたいと思えます。

### 長編連載 『交え合い』⑧

昭和区 久遠寺檀家の一員さん

人様の生き方を比較して自分を評価する愚かさは捨てたいものです。長い人生にはいろいろな障壁を越えて来ましょう。直面しても出来れば余力を残すことも大事でしょう。全力で当たるは少なからず疲労が残る。負の遺産となり回を重ねるに従い挫折の憂き目を見るかも知れません。そのためにも事前の策としてお互い補足し合い支え合いが重要です。健康者も羅病者も、貴賤の夫々の堂みの拙った人達もこの世から決別は皆、同等に裸で帰って行くのです。過ぎ去る年月に良い思い出、楽しい思い出を数多く作り「最後善ければ全て善し」で終わりたいと思います。

くあとがき

久遠寺檀家の一員さんは、数年前にいのちの宣告をされましたが、その宣告にも全く動じず、日々自分の体と向き合いながら過ごしておられます。ご夫婦ともども「感謝」の心を常に持たれ、「生きる」とは生かされていることなのだと思われ、身を持って教える下さいます。次回からも別誌『心の響き』を連載致しますので、ご愛読して下さいませ。

### 報恩講は何の日か。

親鸞聖人は九十歳(一一六二年)十一月二十六日に、浄土にお還りになりました。明治五年に太陰暦を太陽暦に替わったのを機に、一月十六日をご命日として法要が勤められるようになりました。各末寺においては十月を始めて十一月・十二月・一月に報恩講を勤めております。聖人のご遺骨は京都東山大谷の地にお納められ、その十年後には東山吉水の地にご遺骨を移して、六角の堂を建立し、聖人の御影像を安置しました。

報恩講という名称は、本願寺第三代 覚如上人(親鸞聖人の曾孫)が親鸞聖人のご遺徳を讃え、『報恩講私記』を著された時からです。

毎年のご命日を通して、親鸞聖人のご恩徳を偲び、聖人のみ教えを学ばせて頂く、また改めて教えを確認させて頂く事が、報恩の名の由来であります。私達が思う恩に報いるとは、両親または先祖・恩師という周りの方々の御陰で今の自分があるという恩恵に感謝することです。しかし、真宗での報恩は、九十年の生涯を通して、真実の宗教とは何であるかと教えて下さった事、出遇わせて頂いた事への感謝であることが真義なのであります。 南无阿弥陀仏

# 久遠寺蔵軸の調査 が終了しました！

昨年、第一回『虫干』を開催した後、久遠寺蔵のお軸を数点博物館の先生に調査を依頼しておりました。先日調査が終了したようなものかをご説明頂きました。博物館に依頼していたお軸は、

- 一、『翁図画賛』 伊勢門水筆
- 一、『紅葉短冊図画賛』 探信筆
- 一、『白梅図』 麻谷筆
- 一、『杜甫乘驢図』 探幽筆
- 一、『書状』 松花堂昭乗筆

の五点で、今年八月に催した第二回『虫干』では残念ながら出展できなかったものです。どのお軸もほとんどが江戸時代のものでした。学術的な真贋については、『杜甫乘驢図』一点が模写品ということが残念でありましたが、日常使用するには申し分ないほどのお軸であるとも言って頂きました。逆に良いものに関して、『白梅図』『書状』は痛みが激しく、一度修理した方が良いとのことでしたので本年度中に修理予定しております。しかしながら、どのお軸

も、法要や茶会に最適なものと  
お墨付きを頂きましたので、寺  
のお勤め時に見合うものを庫裡  
座敷や書院座敷にお出ししてい  
きたいと思えます。早速報恩  
茶会にどれか展示予定です。  
是非ご来寺して頂き、お茶の一  
服とお軸を楽しんで頂けたらと  
願っております。心よりお待ち  
しております。

南无阿弥陀仏  
衆徒 高山信雄

## 編集後記

八月下旬、久遠寺『虫干』を開催致しました。この残暑厳しすぎる折に、ご足労頂きました。方々本当に有難う御座いました。今年で二回目の実施になりました。いつも思うのは、皆さまと一緒にのんびりしながらいろんなお話ができること。ご来寺してくださった方々は、私なりに満足してお帰り下さったと思っております。

今回初めての試みであった写経も、ゆつくり時間を忘れて没頭して下さいました。そんな中でよく質問頂いたのが、真宗で写経って珍しいね。やってみようか？という事です。常日頃の忙しい我が身を少し離れ、仏様

の近くでのんびり字を書いて過ごして下されば、というだけ  
の願いで行っております。です  
から、奉納もしませんし、別に  
写経でなくてもいいと思えます。  
ただ、最近パソコン時代になっ  
てきて、字が疎かにされている時  
代でもあります。そこで、自分の  
字を通して、あつ自分はこんな  
字を書いたんだ、思ってたより  
下手だな、上手いななど自分  
自身に目を向けてもらいたく今  
回の実施となりました。どうか  
らご参加くださった方々は、来  
た時のお顔より帰られるお顔  
の方がなにより充実したよう  
に感じられました。

今後の実施の際には、是非ご  
参加下さいますことを宜しく  
お願い申し上げます。  
南无阿弥陀仏  
衆徒 高山信雄

## お知らせ

- ◎久遠寺ホームページ&ブログも随時更新中です。是非お時間のある時にご覧ください。
- ◎寺報記事も随時募集中です。ご協力お願い致します。
- ◎お経本は床に置かないように気を付けましょう。

## 今後の予定

10月16日(土)  
※時間詳細2Pにて

# 報恩講

# 報恩茶会

久遠寺本堂・書院

11月16日(火)  
午後1:30～

真宗入門法話会⑥  
和讃のこころ  
～恩徳讃～

久遠寺本堂

12月20日(月)  
午後1:30～

真宗入門法話会⑦  
和讃のこころ  
～副題未定～

久遠寺本堂

1月10日(月)  
午前9～12時迄

修正会(お正月)  
お墓参り

平和公園墓地

是非皆様お揃いでご参詣ください。